



厚別区版

未来につながる 北海道、厚別区を!

課題に向かって真摯に、粘り強く取り組むのが花崎勝道議の身上です。丹念に地域の声に耳を傾け、道政との懸け橋として走り回り、信頼関係を着実に築き上げています。道政上の懸案事項は山積していますが、「難しいほどやりがいがある」と花崎道議はチャレンジ精神をあふれさせています。

北海道議会議員

見て 聴いて 走って 応える

はなさき勝さん

花崎勝道議のプロフィール

- ◆昭和28年8月9日生まれ
- ◆札幌市豊平区美園小学校、陵陽中学校を経て、昭和47年3月、北海道高校卒業後、株式会社ワコール入社
- ◆平成21年から衆議院議員町村信孝氏の組織局長として活躍
- ◆現在
道議会関係 経済常任委員会委員、新幹線・総合交通体系対策特別委員会委員

はなさき勝事務所

〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条5丁目8-20
電話011(890)7055 Fax 011(890)7066

北海道議会議員 花崎 勝

今後とも皆さまの変わらぬ温かいご支援をお願い致します。

さて、自民党・道民会議は第3回定例道議会の代表質問で、今冬の電力需給対策や北海道新幹線の札幌延伸、食中毒対策、いじめ問題などを取り上げ、高橋はるみ知事から道政を前進させる前向きな答えを得ました。私も道政与党の一員として高橋知事を支えながら、北海道と厚別区の発展に向けて全力で頑張ります。

9月上旬、自民党道議の有志と、未だ大震災の傷跡を残す福島県を視察しました。地元の方々の苦悩を直接お聞きし、政治の果たすべき役割の重さを改めて痛感しました。

平素より、皆さまにはご指導、励ましの言葉を頂き、厚くお礼申し上げます。

課題を着実に
解決したい



▲北海道新幹線での貨物輸送対策を視察

自民党道連新幹線建設促進等調査会と花崎勝道議ら道議会自民党・道民会議の19人のメンバーが9月12日、JR北海道苗穂工場を訪れ、トレイン・オン・トレインシステムを視察しました。

同日は、システムの概要説明を受けた後、実物大モックアップを視察しました。参加した議員から、システムやスケジュール、コスト面、法の規制などについて多くの質問が出され、熱心な意見交換が行われました。

◆道新幹線でJR北海道苗穂工場を視察

トレイン・オン・トレイン・システム

花崎勝道議ら14人の視察団は、同社が保有するデータセンタービルを訪れ、同ビルにデータセンターの開所を予定している日商エレクトロ

視察を終えた花崎道議は「本道経済の活性化に向けて、IT産業とエネルギー産業は大きく期待されています。積極的に支援していきたい」と話しています。

石狩市は地震発生率が低い地域で、通年わたって冷涼な外気の冷房を使用できることから、データセンターにとつては一番コストがかかる空調の消費電力量を削減できます。こうしたメリットに着目し、さくらインターネット(本社:大阪市)がデータセンターを開設しました。

その後、石狩湾新港で北海道ガスが建設中のLNG基地に移動。同基地は、道内初の受入基地で、地上式としては国内最大級の貯槽タンクを有し、道内の天然ガスの需要に応え、供給源の多様化によるセキュリティ向上を目指しています。同社の担当者から概要の説明を受けたのち、建設中のタンクや船受入バースなどを視察しました。



▲エネルギー産業の現場を視察

◆石狩地域のIT、エネルギー産業を視察

データセンター・LNG基地

第3回定例道議会

総額95億円の補正予算を可決

道単独事業費 などを計上

平成24年第3回定例道議会は9月11日招集され、10月5日まで25日間の日程で、総額94億8500万円の一般会計補正予算案などを審議しました。

今回の補正予算にはグリーンニューデール基金事業費8億4500万円、介護基盤緊急整備等特別対策事業費7億5400万円、特別支援学校施設整備費1億500万円などのほか、道路改修や林地荒廃予防に活用する投資単独事業費53億円も計上されました。

自民党・道民会議は石塚正寛議員(留萌市選出)が9月18日に代表質問に立ち、原発・エネルギー問題、道新幹線の札幌延伸、いじめ問題など道政上の課題を取り上げ、高橋知事らに見解を求めました。



▲団体政策懇談会で全道各団体からの要望を受け道政に反映

自民党・道民会議の代表質問項目

I 知事の政治姿勢について

- (1) 日本再生戦略について(2) エネルギー政策について(3) TPP問題について

II 道政上の諸課題について

- (1) 原発・エネルギー問題について(2) 防災対策の総合的な推進について(3) 振興局等の災害対策について(4) 本庁舎の長寿命化について(5) 北方領土隣接地域振興計画について(6) 地域政策展開方針について(7) 離島振興について(8) 総合的なまちづくりの推進について(9) 北海道新幹線の札幌延伸について(10) エンジカ対策について(11) 高齢者の孤独死問題について(12) O-157による食中毒について(13) 道立病院改革プランについて(14) 医師確保について(15) 中小企業金融円滑化法について(16) 地域商業の活性化について(17) 海外との経済交流について(18) BSE対策について(19) 飼料価格の高騰について(20) 水産資源の増大について(21) 道産木材の利用促進等について(22) 建設産業支援プランについて

III 教育問題について

- (1) いじめ問題について(2) 学力向上対策について

- (3) 教職員の服務について

IV 公安問題について

- (1) 職員の不祥事について(2) 交通死亡事故抑止対策などについて

今冬の電力の安定供給対策は

II—(1) 原発・エネルギー問題
石塚議員 道民の生命・財産を守る立場にある知事として、今冬の電力の安定供給に向けて、具体的にどう取り組むのか。

高橋知事 この冬の需給状況は夏以上に厳しいものと見込まれる。国や北電に対し、正確な需給見通しや計画停電の回避に向けた更なる対策を早急に示すように強く求める。分野ごとに節電対策を協議する場の設定や自家発電に対する支援制度の促進などの必要な対策について、早い段階から国や関係機関、経済団体としっかり連携を図りながら、最善を尽くす。

工期短縮にどう取り組むのか

II—(6) 北海道新幹線の札幌延伸
石塚議員 24年間の整備期間については、工期短縮、早期開業を求める声が上がっている。今後どのように取り組むのか。

高橋知事 新幹線による道内経済の活性化といった観点から、少しでも建設工期が短縮されるのが望ましい。国に対し、財源確保の前倒しや地方負担の軽減、新たな財源の枠組み検討などで工期の短縮を図られるよう、オール北海道として要請する。

食中毒発生防止を示せ

II—(12) O-157による食中毒
石塚議員 7人の犠牲者を出したこの度のO-157による食中毒の経緯を踏まえ、どのよ

うに関係機関との連携に取り組むことにしたのか。高齢者に食事を提供する社会福祉施設での食中毒発生防止にどのような取り組みを行うのか。

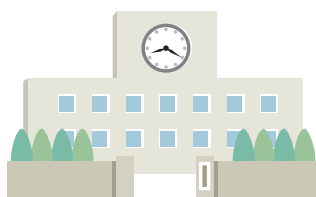
高橋知事 食中毒が広域に発生した場合を想定し、道と保健所設置4市による常設の合同対策本部を設置するほか、庁内の北海道食の安全・安心推進本部の下、速やかに関係部連絡会議を開催するなど、迅速かつ適切な対策に取り組む。社会福祉施設などについては実地指導や研修会、会議を通じて自主衛生管理を徹底し、認知症高齢者グループホームでは実態把握を行った上で衛生管理マニュアルを作成するなど万全を期す。

専門的な体制づくりが必要

III—(1) いじめ問題

石塚議員 文教委員会では、会派の議員が「いじめ問題については、学校ばかりではなく、行政においても機動的、専門的な体制づくりが必要だ」と指摘した。どのように取り組むのか。

高橋教育長 今月中を目途に、2人の専門職員と関係課や道立教育研究所の指導主事らからなる「いじめ問題対策チーム」(仮称)を設置する。併せて学校や市町村教育委員会に対する指導・助言、支援を行うチームを設置し、いじめ問題への対応を一層強化する。



道議会経済委員会

◆花崎道議が 雇用改善対策で 質問

花崎勝道議は8月7日に開かれた道議会経済委員会、本道の雇用施策の点検評価や雇用創出基本計画などについて経済部の見解を求めました。

この中で花崎道議は、本道の就業率について「20歳代のほか女性や65歳以上が低く、製造業は全国の半分以下」と状況を分析。「雇用対策だけでは対応できない。目に見える形での改善は図られていない」と指摘し、「施策の点検評価を踏まえて、推進計画へどのように反映させるのか」と道の考え方をたずねた。

これに対し、山谷経済部長は本道の雇用情勢について「全国との比較でも依然厳しい状況が続いている」と答弁。来年度の推進計画の策定にあたり、「市町村や事業者などさまざまな力を結集して、雇用の維持・拡大に全力で取り組む。こうしたことを計画に盛り込む」と答えた。



▲道議会経済常任委員会で鋭い質問を展開